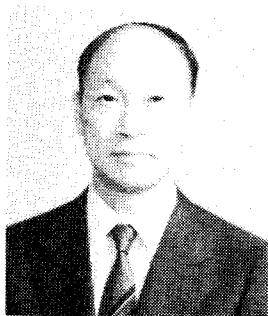


新春を迎えて

日本熱測定学会会長
東北大学選鉱製錬研究所教授 矢澤 彬



新年おめでとうございます。会員の皆さまおすこやかに1988年の新春をお迎えのこと、存じます。年頭にあたり、皆様の愈々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

さて昨年10月から、前会長近藤良夫先生の後を承け、本会の会長という重責を担

うことになりました。いろいろな形で「熱」とは40年にわたりかゝり合いを持って来ましたものの、多くの分野を包含する本学会の中では、ほんの片隅の仕事しか経験して居らず、一兵卒がいきなり全軍の指揮官を命ぜられたような戸惑いを感じておりますが、会員皆様のお助けを得て、なんとか任務を果たしてゆきたいと考えております。

昨年、1987年も本学会は活発な活動を展開して参りました。6月には近藤会長のご盡力により、熱測定講習会、熱測定ワークショップを京都で開催致しましたが、いつもに勝る参加者を得、大変好評であった由、二匹目のどじょうを狙って今年も京都で開催させていたゞく予定にしております。また10月12日から14日にかけて、第23回熱測定討論会が広島大学にて盛大に挙行されました。超電導などの最先端技術に到るまで本会会員の活発な研究が伸びているのを目のあたりにし、また内外の特別講演者からはそれぞれ感銘深いお話を承わることができ、討論会への出席の意義をあらためて痛感致しました。本年は谷口先生にお世話いたゞき、10月3日から5日にかけて東京工業大学に於て第24回熱測定討論会を開催する予定です。これらの集会のほか、応用熱測定研究グループ、熱力学データベース作業グループなどのグループ活動も精力的に続けられております。

ところで最近の日本の社会は表面的な豊かさ、繁栄の陰に、何時どうなるか判らぬ不安定な要因を内包しており、急激な技術革新に伴う産業構造の変化と相まって、日本人の気持を落ちつかないものにしております。この

ような不安定要因が、たとえばアメリカ経済、イラン・イラク戦争というように、にわかには手の及び難い外的要因が主体であることも、今の日本の特徴と申せましょう。つまり国内的にはかなりのところ迄来たものの、国際社会では未だ脆弱性をぬぐい切れぬ現状であり、その解決には即効的な対処法は表面を糊塗するに過ぎず、根本的には日本が国際社会で信頼を勝ち得るよう長期的に努力するはかばか無げに思えます。地道な学術文化交流が強く望まれるゆえんですが、この意味で既に継続的に国際活動を推進してきている本会の役割も決して小さくないと信じております。研究用機器にあまり恵まれていないような途上国に行ってみても、なんらかの熱測定機器を備えているところは甚だ多いのです。熱測定という学問技術の対象分野が非常に広く、入りやすく、またそれなりの効果を生むからであろうと思われる。会員の皆様も外国からの留学生、研修生等にもなるべく熱測定に親しませ、それぞれの国で開花させるようご努力をお願い致したく、その成果がまた日本熱測定学会の発展につながると信ずる次第です。

話しは変わりますが、私どもの学会にとって、永年事務局長を勤めて来られた松本直史さんが退かれたことは、大変大きなできごとでした。熱測定学会が本日あるのは、歴代会長を始めとする会員の皆様のご努力によるものですが、その発展の歴史は松本さんのご盡力を抜きに語ることはできません。会員お一人お一人にとって親しみ深く、思い出の多い方でした。幸い新しい事務局は村川さん、土信田さんがご担当下さっており、松本さんもなお直接、間接お力添えを戴けますので、本会の運営に齟齬はありませんが、事務局が変わったばかりの本年は、会員の皆様に多少のご寛容を願わねばならぬことがあるかも知れません。事務局、幹事の方々と相はかり、円滑な運営を心掛けたいと思いますので、よろしくご協力のほどをお願い申し上げます。

おわりに重ねて皆様のご繁栄をお祈り申し上げ、以上年頭のご挨拶とさせて戴く次第です。